

5 豊後大野竹田連携都市圏の将来像と都市づくりの方針

(1) 目指す将来像

情緒豊かな印象派のふるさと、人と文化が交流するやすらぎの山間都市圏づくり

- ・情緒豊かなふるさととしての美しい山間観光拠点都市づくりを目指します。
- ・国道や流域を軸とした連携都市圏を構築し、安心して生活できる都市圏を目指します。

(2) 都市づくりの基本的な考え方

① 圏域構造の考え方

圏域構造の概要

- ・大野川とほぼ平行に走る国道 502 号と、中九州横断道路を都市間交流軸とします。
- ・古くからの交通の要衝として、大分市、日田玖珠、県南、熊本、延岡方面へ連絡する幹線道路を有しています。
- ・市街地を大野川流域の広大な田園景観などで取り囲み、その周囲を阿蘇くじゅう国立公園や祖母傾国定公園の山地・高原の自然地が取り囲みます。

各都市の役割

- ・竹田市は、これまでの歴史的文化遺産を活用した観光機能の更なる強化を図り、阿蘇山や久住高原などとの連携を考慮したレクリエーション拠点として中心的・先導的役割を果たすとともに、生活環境の充実を図り、自然・文化が息づく観光・生活都市の形成を図ります。
- ・豊後大野市三重町は、鉄道や道路網による立地特性を活かして竹田市や大分市との連携を図りながら、魅力ある中心市街地の形成、自然緑地や優良な農地及び林地などの環境の保全を積極的に行います。

② 土地利用の考え方

- ・盆地の地形特性や周辺の田園環境の保全を考慮したまとまりのある市街地形成を進めるとともに、効率的・合理的な土地利用を誘導し必要な都市機能の充実を図ります。竹田インターチェンジ周辺など、無秩序な開発が進む可能性のある地区では、適切な土地利用への誘導を図ります。
- ・岡城などの文化資源、祖母山系に源を発する清らかな水などの自然資源の効率的・効果的な利活用と保全に資する土地利用を進めます。
- ・市街地の周囲を山地・高原が取り囲んでおり、集中豪雨等による低地の浸水や氾濫のほか、土砂災害等の災害が懸念されるため、災害リスクの高い区域においては、施設立地の抑制や災害対策の充実など、適切な土地利用の転換を図ります。

③ 都市施設の考え方

- ・都市間の交流を支える基盤として国道 502 号と中九州横断道路及びそのアクセス道路の

整備を促進します。また、圏域外との交流を促進する国道 10 号、国道 442 号などの整備を行います。

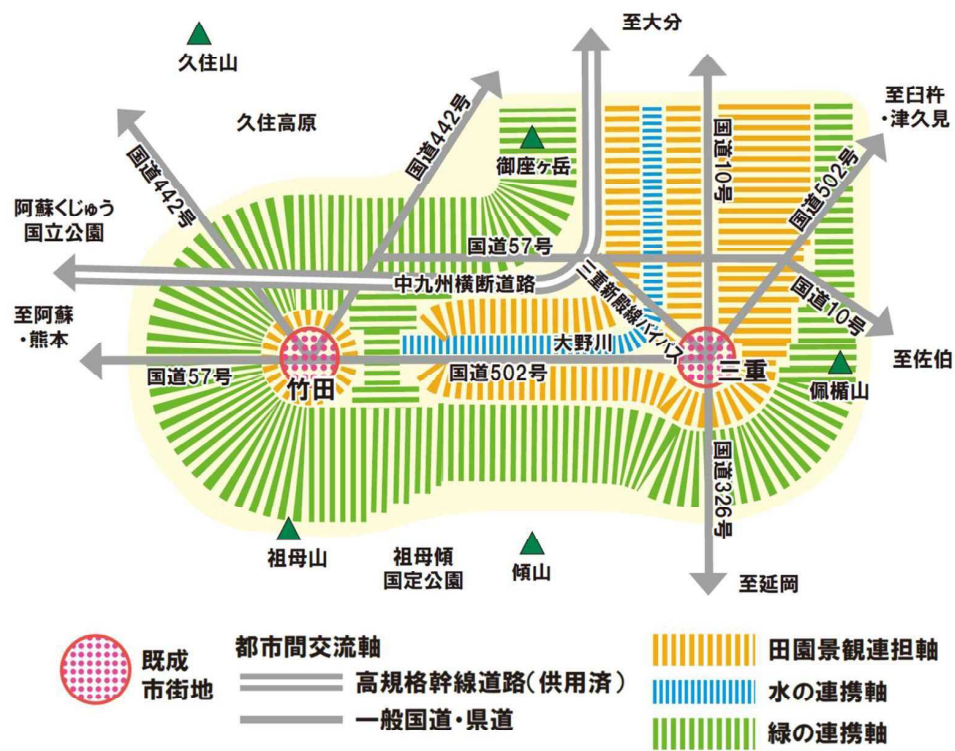
- ・市街地においては、歴史ある町割りや建築物を活かし、歩いてまわれるまちづくりを目指します。
- ・路線バス及びコミュニティバスなどを確保・維持し、誰もが各拠点間にアクセスできる公共交通ネットワークを構築するとともに、情報通信技術を活用した交通需要マネジメント、自動運転や次世代型の自動車のシェアリングシステムなど、新たな交通システムの導入について関係機関と連携して検討を進めます。
- ・周辺の田園環境、丘陵地と併せた大野川流域に広がる水と緑のネットワークづくりを目指します。

④ 自然環境保全の考え方

- ・大野川やその源流となる河川、久住山、祖母山、傾山などを中心とする山地や高原、大野川中流域や竹田盆地に広がる田園について、広域的な保全を図ります。
- ・祖母・傾・大崩ユネスコエコパークに代表される美しい景観を保全・形成するとともに、市街地における公園整備や市街地内農地の保全、グリーンインフラの取組を推進します。

⑤ 都市防災の考え方

- ・本都市圏は、市街地が急峻な地形に囲まれており、集中豪雨等による低地の浸水、氾濫や土砂災害が懸念されます。
- ・このような区域では、土砂災害や河川浸水、津波浸水などが想定される区域等の防災情報を横断的に整理したうえで、ハード・ソフトの施策を柔軟に組み合わせて、多重防御による安全性の確保に努め、強靱な県土づくりを持続的に推進します。



■豊後大野竹田連携都市圏の圏域構造図